

口は健康のもと Vol.97

炎症と歯の治療 事前の定期チェックが重要

虫歯で歯に大きな穴（う蝕）が開いたり、歯ぐきが化膿（歯周病）したことにより、痛みや腫れを感じたことが少なからずあると思います。しかし、多くの場合、炎症は一時的で痛みや腫れは消えてしまうことが多いのですが、さまざまな原因により、炎症が増強したりすると耐えられないほどの痛みや、明らかな顔の腫れが見られるようになります。このような場合、化膿止めや痛み止めを内服し、症状が落ち着くのを期待するのですが、まれに炎症が治まらず口の中に膿が溜まることもあり、ひどい場合には、それらが「くび」や「のど」または「心臓」の近くにまで広がることもありますし、気道（息の通り道）を狭め呼吸困難になることさえあります。このような状況になると入院し、化膿止めの薬を点滴したり、また膿の部分を開いたりする必要が出てきます。しかし炎症がある場所では局所麻酔薬が効きにくく、多くの場合、切開に痛みが伴うためかなりのストレスを感じます。そこで、このような事態になる前に、日ごろから歯科医院で口の中を定期的にチェックしてもらい、う蝕や歯周病を早期に発見して早期に治療することをお勧めいたします。



奥羽大学歯学部附属病院

歯科麻酔科 助教 伊藤 寛

